絶好の機會！

大僧正故本多猊下最近の名著四種左の通り特價提供す
吉凶共に此等の贈答は自他の法益極めて甚大ならん
部數に限りあれば品切れとならぬ間に即時御申込あれ

一 法華經要義　定價 金參圓　送料 十四錢
一 日蓮主義心髓　定價 金壹圓八拾錢　送料 十錢
一 日蓮主義精要　定價 金參圓五拾錢　送料 十六錢
一 日蓮主義本領　定價 金貳圓五拾錢　送料 十二錢

今月中に限り一部賣は二割引

小笠原子爵　田中先生題字
山田博士　佐藤中將序文
磯部法事講輯

一本多日生上人　實費頒布

申込所　東京市外南品川町妙國寺內
「統一」發行所
振替東京五一〇七一番

統一定價		
一冊	金貳拾錢	送料五厘
半ヶ年	金壹圓貳拾錢	送料共前金之事
一ヶ年	金貳圓貳拾錢	送料共

統一廣告料		
表紙一頁	金貳拾圓	前金之事
半頁	金拾五圓	
四分一頁	金九圓	
五圓		

昭和六年十二月廿四日印刷納本
昭和七年一月一日發行（第四百四十二號）

神奈川縣橫濱市磯子區磯子町廣地一四八
編輯兼發行人　磯部滿事
印刷人　鈴木日雄
印刷所　東京府荏原郡品川町南品川百八十一番地　都印刷所　電話高輪六〇二四番
發行所　東京府荏原郡品川町南品川四百十二番地　統一發行所　振替東京五一〇七一番

不許複製

編輯事務ハ發行所ニテ取扱フ

目次

行ズルノ人
聖訓摘要……聖應院日生上人
自界叛逆難他國侵逼難（完結）……四王天延孝
日生上人を憶ふ（其五）
法華經の信解（上）……聖應院日生上人
記事
○統一團協賛會々報
○彙報
○誌料領收

第三十七年二月號

行ズルノ人

今ノ世、釋尊ヲ末聞野蠻時代ノ人ナリト侮リ、佛教ヲ黴臭シト蔑ム者多シ、白法隱沒ノ佛讖即チ是也。語ニ曰ク『道ニ迷フ者アリ道ヲ造ル者ノ罪ナルベシヤ』ト。

教化ノ必要ヲ說キツヽ而モ自ラ行ズルノ人甚ダ尠シ『濁世ニハ聖人モ居シ難シ、大火ノ中ノ石ノ如シ且ラクハ耐フル樣ナレドモ終ニハ燒ケ摧ケテ灰トナル、賢人モ五常ハ口ニ說キテ身ニハ振舞ヒ難シト見エテ候ゾ』嗟　自ラ陣頭ニ起テ示教利喜スルコトノ如何ニ難キゾ。意ニ世ヲ憂ヒ、口ニ人ヲ慨スルモ之レ瓦ノ鏡ニ天月ヲ浮ベントシ、雷鳴ツテ雨降ラズ、彌陀ノ來迎ヲ待ツガ如ケレノミ。

愛子ニ信仰ヲ勸說スル親ハ多キモ先ヅ自ラ合掌スルハ尠シ、教義ヲ敷衍スル師ハ多キモ自ラ色讀セルハ曉天ノ星ノ如キカ。

佛教ハ最モ行ヲ貴ブ、法華經ハ精進ノ教ナリ。『汝一心ニ精進シテ當ニ放逸ヲ離ルベシ』又云ク『勇猛精進』トハ冒頭ヨリノ教勅ナリ。サレバ末法ノ衆生教化ノ大士ハ皆行菩薩タリ。上行、無邊行、淨行、安立行等四行菩薩ノ上首唱導ノ師ハ此月十六日房州小湊ノ邊ニ涌出シ專ラ行人ノ範ヲ示サレ叫ブラク『日蓮慰シタリ若黨共二陣三陣ツヾケヨカシ』ト豈ニ吾等行ズルノ人タラザルベシヤ。『汝等皆菩薩ノ道ヲ行ジテ當ニ作佛スルコトヲ得ベシ』トハ今昔同一ナラン。

行ズルノ因ハ正信ニ安住スルニアリ、經ニ云ク『是ノ人ハ大信力及ビ志願力　諸ノ善根力アラン』

南無妙法蓮華經

聖訓摘要

聖應院日生上人

人間に生をうけたる人上下につけてうれへ（憂患）なき人はなけれども、時にあたり人々にしたがひてなげきしなじな（品々）なり。譬へば病のならひは何の病も重くなりぬれば是にすぎたる病なしとをもうがごとし。主のわかれをや（親）のわかれ夫妻のわかれいづれかおろかなるべき。なれども主は又佗の主もありぬべし夫妻は又かはりぬれば心をやす（休）むる事もありなん、をやこ（親子）のわかれこそ月日のへだつるまゝにいよいよなげきふかかりぬべくみへ候へ。をやこのわかれにもをやはゆきて子はとどまるは同じ無常なれどもことはりにもや。をひ（老）たるはわ（母）はとどまりてわかき子のさきにたつなさけなき事なれば神も佛もうらめしや。いかなればをやに子をかへさせ給ひてさきにはたてさせ給はず。とどめをかせ給ひてなげかせ給フらんと心うし（諸宗遺文錄一四二〇）

これは光日房の子供が亡くなつた爲めにそれを慰めて書かれたのでありますが、人間には誰でも心配な事があるが、但し別離の苦しみほど辛いものはない、即ち主從の別れ、夫婦の別れ、親子の別れ、親しくして居りたる者の別れといふは實に人生の悲痛な事であるが、その中に於ても親が子供を喪ふた歎きが一番強い、親が死んで子が殘る所も子供の歎きであるけれども、これは順當だから仕方がないが、年

老つた母親が殘つて頼寄りにした子供が先きに死ぬといふことに就ては如何にも氣の毒に思ふといふ、この人情の厚い所をお書きになつて居るのである。それから次に

大石も海にうかぶ船の力なり、大火もきゆる事水の用にあらずや。小罪なれども懺悔せざれば惡道をまぬかれず。大逆なれども懺悔すれば罪きへぬ。（縮刷遺文錄一四二一）

これは懺悔のことを敎へられたので、懺悔といふことはどういふ事かといふと、今までやつた惡い事を後悔してさうしてその事を自分の先づ信ずる人によく言ひ現はし、佛樣の前に申し上げて、私は斯く〳〵の惡い事を致しました、しかし今日は最早や後悔を致しましたから再びさういふ惡い事は致しませんといふ誓を立てることが懺悔といふのである、惡い事をしても謝まつてさへ置けば濟むといふやうな事とは違ふ、惡い事をしたつてその時また謝まる、又惡い事をしたつて謝まる、それは懺悔といふ事にはならぬ、悔といふ字は後悔の悔の字だ、悔の字は再びせぬといふことで悔むといふことになる、何遍でもやるといふことはこれは悔んだのではないのである、それは常習犯といふものである、それは宗敎に依つて、惡い事をしたら謝まつてさへ置けば宜いといふやうなことを言ふ人もあるが、それは大變な間違ひで、世間で二犯三犯とだん〳〵罪が重くなるやうなもので、何遍でも惡い事を繰返すといふことは少しも許されて居らない、その懺悔に依つて罪が赦されるといふことは如何にも有難いことで、殊に法華經は無罪障懺悔といふまでなつて、きれいにその罪が消えるのである、恰も日出づれば澤山の霜が消えるが如くに、法華經の信仰に依つてはどのやうな罪があつても皆消え去つてしまふ、また恰も澁味が一晩のうちに甘く變るやうに、自分の一切の罪が一變して功德の人となることが出來るといふことを敎へられて居る、それ故に懺悔といふことを本當にすれば、洵にそれは快い氣持なことになるのである、大きな石でも海に浮いて行くのは船があるからである、小さな罪でも懺悔しなかつたならば、小石でも水に投ずれば沈むやうなもので、懺悔といふものに依つて大きな石でも沈まずに濟むのであるといふことをお書きになりました、法華の人も法華經さへ信じて居つたならば少々惡い事をしても構はぬといふやうに考へる人があるけれども、それは大變間違つた事であります。

或はよも此御房は弘法大師にはまさらじ、よも慈覺大師にはこへじなんど人くらべをし候ぞ。かく申す人をばものしらぬ者とをぼすべし。（縮刷遺文錄一四二四）

これは實に格言です、日蓮聖人より敎はるべき大切な事なのである、つまらぬ人は直きに敎の善惡といふことを考へないで、えらさうに弘法大師とお前はどちらが偉いか、斯ういふやうなことを言つて敎の正邪を判斷することが出來ない、今日の日本の多くの人はやはりこの疾病に罹つて居るのである、日蓮聖人が法華經に依つて正義を主張せられても、お前はえらさうに言ふけれども弘法大師とどちらが偉いかといふやうなことを言つて、法の邪正を考へない者がある、今でも世間は大抵そんなものである、どんな善い敎でも、その人にちよつと缺點があればその缺點の爲めに敎がみな消えてしまふ、坊主が惜け

りや袈裟まで憎いといふやうな譯で、アノ坊さんは偉い坊さんだやと思つて居つたら、この間停車場で燒芋を噛つて居つた、燒芋を噛るやうな坊さんは駄目だと、つまらない事の爲めに大きな大切な善い事をボン〳〵棄てゝしまふ、その馬鹿な事といふものは實に驚くに絶えたるものである、それは光圓卿も言うて居られる、馬鹿な者ほど人間の小さい癖をほじくつてさうしてそれを棄てゝしまふ、さうすればどんな良い學者と雖も小さな癖の無い人はない、と言うて非常にその點に就て詳しく光圓卿が書いて居られる、これは大切な事であります。日蓮聖人のこゝに書かれたのはそれと方面を異にして言はれるのであつて、その人がいけないやうにあつても、教といふものは即ちさういふ見方をしてはいかぬ、例へば大本教には海軍中將が居る、どんな海軍中將か知らないが海軍中將が居るのだから良い宗教であらうと思ふと、大變な間違で、大本教そのものは氣狂ひ婆さんが狐憑の眞似のやうな事をして、お筆先というて姑蝓の這つたやうな字を書いたものがお經といふことになる、それはどうして出て來たかといふと、專門的に考へて見れば狂氣の輕い奴のやうなものである、どこから考へて見てもそれは何の意味もないのである、日本と亞米利加が戰爭をして、さうして東京から天子が逃げ出されて何處へ行くかといふと、京都の綾部で、その時に穴倉の中にお住ゐになるといふやうなことを言ふ、到頭朝憲紊亂で捕へられる譯であるけれども、刑事政策上不敬罪に問はれて、輕くして戴いて五年の懲役といふことになつて居る譯である、大本教では盛んに政府が壓迫するとか何とかいつて宣傳して居るけれども、壓迫する

譯でも何でもない、そんなつまらないものであつたならば海軍大將が信じて居らうが、陸軍大將が信じて居らうが、何もなりはしない、教といふものはそんな所から見るべきものでない、その法の正邪を判斷すべき標準といふものがある、一錢銅貨は大將が持つても一錢銅貨である、立ン坊が持つても五錢の白銅は五錢の白銅といふことを知らぬやうな者はこれを世の中で馬鹿といふので、つまらない事を言つて教の正邪が分らぬ、だから私はいつもさういふ人間に言うてやる、雀を捕るやつは鳥を使ふ、私は貧て綾部で演說して言ふたことがある、兎に角今は雀を取る時の鳥が演說を聽きに來て居る、何々文學士、何々〳〵中將といふのはそれは皆鳥だ、雀を取る時に足を結つた鳥に米を撒いてやつて置くと、鳥が米を喰つて居る、向ふを飛んで居る雀が、鳥のやうな奴さへ米を喰つて居る、あんな網が張つてあつても大丈夫だらうといふので、安心してそこに澤山の雀が下りて來て米を喰つて居ると、隱れた人が出て來て網を伏せて皆取つてしまふ、今の世の中にも雀のやうな人間が澤山居つて、あんな鳥まで米を喰うて居るからというて澤山そこに集つて行くが、笑んぞ知らんその鳥は足を括られて居るそこに飼はれて居る所の鳥だというて綾部で話をしてやつた、ちッと弱つたやうな顏をして居りましたが、世の中はそんなことではいかぬ、そこを日蓮聖人は眞の法はこれを擇ぶべき道に依つて進んで行かなければならぬと言うて居られる、實にその點が私は立派だと思ふ、人くらべするやうな者は愚かな者だと言うて居る、日蓮聖人は馬鹿が直き人くらべといふことをやる、人の方は向上するのだから實に愚なことであります。或

る事に達して居つても、或る事に馬鹿な者は澤山ある、帝國大學の教授が日本の國體を壞すやうな危險思想を唱へる、けれどもあれは帝國大學の博士だから間違つたことは言ふまいと思ふけれども、博士だつて間違つたことを澤山言ふ、それをその人を信じて間違つた思想でも何でも受入れやうとする現代人の愚かなことゝいふものは實に烈しいものである、先づ〳〵今日のあゝいふ風な學者の言ふことは警戒せなければならぬと考へる方が本當なことである、輕卒にそれを信ずる人はいかぬ、又日本の佛教に於ては各宗の祖師々々と云つて今まで、皆な信じて居るけれども、各宗の祖師といふものが大體やり損うて居ると考へる、大事の佛法の中から詰らぬ方便の教のやうなものを出して、現に今日佛教をして人心を感化し得ないやうな事にしてしまつたと云ふことは、此の結構な教をこんな事にするまでには二重にも三重にもやり損はなければならぬのであります、先づこれは根本が拙かつた結果だと考へるのが本當である、こんな拙いことにするのはよほどの失策ぢや、小さな失策ではこんなことにならぬ、釋尊の教といふものをよくも此處まで念入りの上に念入りに間違はせたものであると考へるのである。

自界叛逆難他國侵逼難（完結）

陸軍中將　四王天延孝

其のことはそれまでとして、茲で吾々が考へなければならぬのは、日露戰爭の時に支那が如何なる態度を取つたかといふことを追懷して戴きたい。是は今日本人に忘れて居る人があります。日露戰爭の時に支那は一體どういふ態度を取つたか、何方に參加したか、或は中立を守つたかといふと「遼河以西に於ては局外中立、遼河以東の所に付てはどうぞ御勝手にお使ひ下さい」と言つたではありませぬか、是が果して自分の國の領土であるかどうか。是が完全に自分の國の領土であるとするならば、露西亞が惡いと思へば日本と一緒になつて攻擊すべきである。露西亞が正しくて日本が惡いと思ふならば露西亞と一緒に日本に向へば宜しい。それを「まあ喧嘩をなさるならどうぞ勝手にやつて下さい。但し此方へ戰爭を持つて來られては困るから、遼河から西の方だけは大砲の彈を撃込んだり、人が入つて來ないやうにして下さい」と言つて居る。だから滿洲の方面に對しては殆ど自分の主權を認めなかつたといふことは、此の一事を以つても明かである。滿洲に對して支那は大きな口は利けない筈である。而も如何でありますか、若しも日露戰爭無かりせば、即ち日本が露西亞の勢力を撃退しなかつたとしたならば、今日如何なる狀態になつて居ると皆さんは御考になりますか。必ず露西亞はもつとどん〳〵と滿洲を確實に占領して、今日の外蒙古と同じやうに赤い旗は翩翩として滿洲の地に翻つて、滿洲は露西亞の領土

となり、延ひて朝鮮まで今は眞赤なソヴイエット朝鮮になつて居る。露西亞がさういふ方面で鋒鋩を現はしますれば、獨逸は必ず山東の占領を永久にし、佛蘭西は雲南の方面をスッカリ占領し、英吉利は長江沿岸をしつかり抑へて、實に支那といふものは文字通り東洋のバルカンとなつて、歐洲列國の勢力頡頏の舞臺になつたことは些の疑を容れる餘地はない。此の歐洲列國の爲に分割されてしまふ禍を免れ得たのは一體何人のお蔭であるかと考へて見るならば、正に日本帝國がそれは自衛の爲でもあつたけれども、又一方には東洋永遠の平和といふことを、明治天皇樣が宣戰の布告の中にも明かに仰せられてありますが、之を擊退して白人種の東洋東漸の勢を挫折したといふことは、實に世界の有色人種の先頭に立つて日本が有難い仕事をしてやつたのでありますが、支那は之を忘れてしまひました。

明治四十四年に第一革命が行はれました時に、私は官命を以つて革命軍の中に暫くの間入つて居りました。今南京政府の有力者に戴天仇といふのがあります。彼の男などは一緒に暮して居つたのでありますから、彼等の心理狀態も能く知つて居りますが、彼等が如何に日本の勢力を恐れ、日本に賴つてどうか革命を成立さして貰ひたい、どうか日本が之を潰さないやうにして貰ひたいといふことに付て、彼等は手を合せて吾々に賴んだものであります。私が僅の便利を與へてやつた時の如き、即ち彼等の行動半徑を遼東半島にまで擴げてやつた時には實に喜んだのであります。彼等の首領黎元洪、孫文、黃興、胡漢民などは、我が頭山翁、犬養先生などに對して、「元々吾々の革命といふものは滅滿興漢といふ大旆を揭げて起した革命であるから、此の革命成立の曉に於て日本が好意を表して下さるならば、滿洲邊りを日本が如何やうに御處分なさらうとも吾々は異存は申さぬから、どうか此の革命を成立さして戴きたい」と言つて懇願したものであります。日本は其の通りしてやつたのでありまして、今の關東軍司令官本庄繁氏あたりは少佐で上海に駐在して居つた。さうして南方の方と始終連絡を取つて、目を瞑つて彼等の革命運動をやらしたのであります。日本が若し邪魔を容れたならば革命などがどうして出來るものですか。日本は全く好意を以つて彼等を見てやつた。所が今や其の數々の御恩を忘れてしまつて、「打倒日本」などと言つて之を擊退し、滿洲を返せといふやうな勝手な熱を吹いて居るのであります。

今支那の中で何處が一番安全な地帶でありますか、所謂四百餘州、今日の十八省の中で何處が一番安全であるかと言へば、東四省が一番宜しい。何となれば南の方は毎年軍閥同志が年中行事のやうに兵亂を事として居りますから、人民は安住の餘地がない。十八省の中で滿洲だけが日本の守備隊があつて秩序が維持せられて居るものでありますから、東四省に向つて南の方から流れて來る人民が毎年百萬人づゝあるのであります。それは誰のお蔭でありますか、日本が二十億の大金を費し、二十萬の血を流し、其の中十萬は骨を滿洲に埋め、鬼哭愁々として今尙ほ此處に留つて居るのであります。それのみならず、尙ほ四億の金を掛けて滿鐵の改良をし、人文發達の爲に盡してやつて此の安住の土地を作つた。それが爲に支那の南の方からどん〳〵移住して來て居る。其の先生達が「もう日本は歸つて呉れ」と言つて排日などをやるのは、何たる忘恩の民であるか。日本の一部の人の中に「日本が餘り强がつたから、戰で抑へつけた其の反動で排日が起つた」などと言ひますが、そんなことは嘘ッ八である。排日といふものは決してそんなことで起るのではない。そんな淺薄な見解を有つて居るから對支政策が片端から間違つてしまふのであります。今國際聯盟へ行つて

居る芳澤さんが第三師團の撤兵の時に、名古屋へ來て地方の有志を集めて御演説をなさつた時に、「今度山東の撤兵をなさつた、是で脱線して居つた汽車が軌道の上にうまく乗つたのだ、是で排日は段々なくなる」といふことを言はれましたが、私はメインテーブルの二三枚此方に居りましたけれども「皆さんそんなことを信じたら大變です、まだ是から排日は強くなりますぞ」といふ反對論を私は述べました。果して山東から撤兵をしたから排日がなくなつたといふ譯のものではありませぬ。其の前に山東省を日本が世界大戰の結果有つて居る時に、支那の大總統の顧問をして居つた猶太人のシンプソン、それから支那の中宇王といふ博士が來て私共に說くのに、「今や日支の間に諸懸案も山積して居るが、山東を日本がお返し下さるならば、其の他の諸懸案は立ち所に日本に有利に解決しますぞ」と言つて頻に私共を誘惑をしました。私共は腹の中で、「此の理が、そんなことを言つて此方が一繩綏め二繩綏めたならば、あべこべに喰ひ殺される、カチ〳〵山のお婆さんになるぞ」と思つて私共は當局を警戒致しました。果して段々手を緩めるだけ排日といふものは強くなつて來る。是は決して山東に出兵したから、何だかんだといふやうな譯のものではありませぬ。それにもやはり世界のブラック・チエンバーの手が動いて居るのであります。今のライヒマンだのソールターだの色々の人達が支那に來て居つて、要らざる智慧を付けたりするから惡いのでありまして、其のことは亞米利加人で日本へ何遍も來たことのあるお札博士として有名なスタールといふ人が去年言つて居ることに面白いことがあります。去年の十月歸る時に斯ういふことを言ひました。

『日本が將來滿洲から相當の報償を期待すべきは當然である。然るに今の評論家は、滿洲問題は三角關係を有すると稱して居るが、私は左樣に

簡單になれば結構であると思ふ。併ながら私は滿洲が往く〳〵四角五角六角關係を有して居ることを憂へて居る。若し滿洲を日露支の三國に任せて置くならば、其の結果は別に憂ふるに足らない。如何となれば、隣國同志といふものは大體公正なる協定に到達することが出來るからである。然るに當事者以外の第三者が餘計なお折介をやる場合に紛爭が百出するものである』

といふことを喝破して居ります。即ち亞米利加あたりが餘計な口をきいたり、唆したりする輩があるから國際關係が紛爭するのである。今の王正廷は米國仕込みの男である。而もそれは猶太人の支援を受けて居る男である。其の事は私が上海から猶太人の情報を取つて見ました所が、王正廷の五十年のお誕生祝ひの時に猶太人が實に歯の浮くやうな頌德表を奉つて居る。「實に王氏は分つた人である、我が民族運動に多大の同情を表して云々」といふやうな歯の浮くやうなことを言つて居る。さういふことで王などを煽てる者が居るのであります。それだから王などが不埒なことを言ふやうになつて來る。決して支那人の本當の考ではない。私も考へて見れば七年の間支那の土を踏んで居ります。此の間も上海、南京を歩いて來ましたが、支那四百餘州の平和の人民が、決して日本に對して敵對行爲をしようと考へて居るのではない。それは職業的政治家の話である。而して其の職業的政治家を操縱して居るのは、其の背後のブラック・チエンバー、色々のものが支那の勢力を以つて日本に對抗し、日本の内部に之と策應して支那より手を引け會、對支不干涉同盟なんといふものを拵へ、さうして對外軟弱外交をやらせるやうな秘密結社が存在して居る。其の中に引懸つて居る。日本の當局者も居るらしいのであります。そんな關係から段々事柄が面倒になつて來る。其の結果は遂に幼少なる小供に至るまで排日觀念を養成し

て、今度は本物の支那人を作上げて日本と戦はうといふやうなことにまでなつて來るのでありまして、現在の支那四億の人民といふものは決してそんなに戰爭を好む人民ではありませぬ。其のことは私共能く知つて居ります。それを使嗾して日本に嗾けようといふ輩は實に惡い奴であります。

吾々は斯る恩義を彼に對して著せてあるのであります。彼が其の恩義を感じないことは憤慨に堪へませぬけれども、併し支那人に向つて恩を感じないことを吾々が憤激する其の方が間違つて居るかも知れませぬ。それは吾々日本國民とは全然彼等は考が違ふのであります。日本では日支の間は同文同種である。脣齒輔車の關係であるなどと言つて居りますけれども、思想の根本などはスッカリ違ふのである。風俗も非常に違ひます。一例を擧げれば、日本人は顏を洗ふのに手拭なり水なりを持つて手の方を動かすのでありますけれども、支那人は手拭の上に顏を持つて行つて顏を擦る。又手を拭くのでも、吾々は手拭を動かして手を拭きますが、彼等は手拭を持つて居つて腕の方を動かして拭くやうなことをする。人情風俗もそれ位に違ふ。もつと根本の思想が違つて居る。其の一の極端な例を擧げますと、大正元年九月十三日、乃木大將が實に天下の人心を覺醒せしむる爲に、又自分が旅順其の他に於て多數の部下に死傷者を出したといふような事、色々の御考もあつたでありませう。是は私共の想像でありますが、高潔なる御考を以つて奥さんとお二人で自害をなされた。其のことに付て支那の新聞が如何なる論評をしたと思はれますか、私は當時旅順に居つてそれを見たのでありますが、南方の新聞の一に斯ういふ振つた論評を見ました。「一體乃木さんは幾ら借財が出來たのか、何に負けたのであるか、（麻雀か賭博に負けたと思つたらしい）あれだけの人になるまでには親類に相當の者もあるだらうし、友達もあるだ

らうのに、死なないでも宜からう。誰か立替へてやりさうなものだが、日本人は案外人情のないものだな」といふ、實に見當違ひの、噴飯に堪へない論評をして居りました。支那の諺に、『蒸雀安ぞ鴻鵠の志を知らんや』といふことがありまして、雀や燕は鴻や鳳の腹は分らぬといふことがありますが、支那人にどうして日本人の高潔な考が分るかと言はなければなりませぬ。彼は實に一個の利己主義、利害ばかりで動くのであつて、恩義に感ずるとか、恩を忘れないとかいふ風なことを支那に望むのは、抑々吾々の間違ひであるかも知れませぬ。

左樣な譯でありますから、支那に對しては列國は隨分面白いやり方をして居ります、北清事變の時から私は見て居りますが、北清事變でも先づ以て支那人に對しては一つガーンと拳骨を喰はせる、さうして向ふの大事にして居る馬蹄銀なり何なりを取上げて置いて、それから今度それを與へると彼等は非常に悅ぶのであります。日本のやうに馬鹿正直に、殴りもせず、取りもせず、さうして遣りもしないといふ者は馬鹿にしてしまふ。支那人を取扱ふには所謂『人を見て法を說け』で、なか〳〵やり方がある。あまり日本人は正直過ぎて損をして居る、一遍やつたらそれがいつ迄も效いて居ると思つたら大間違ひ、注射は時々せんといけませぬ。殴る時は殴る、取るものは取つて置いて、さうして恩義を被せるやうにしないといけませぬ。そこらの所はよほど能く支那の事情に通じないと歐羅巴諸國を歩いて來た外交官などが其の頭腦で對支政策を立てると、飛んでもない間違が起るのであります。

斯る有樣にも拘らず、支那が今申すやうに三百件も事件を拵へ、條約違反を敢てして顧みないといふやうなことになるのはどういふ譯であるか、私はもう一昨年からこれを各地で述べて居りますが、張學良の機關新聞の東三省日報が、濱口内閣成立して

から未だ幾何もならざるに、既に『濱口内閣に要望す』といふ社說を掲げて排日記事を出しました。曰く『濱口若し能く日支の親善を考へ、排日の因を無くさうと思ふならば以下列擧する所を能く考慮してこれを實行に移せ』と言つて、

一、旅順大連租借地の返還
一、南滿洲鐵道の還付
一、滿蒙特殊利權の拋棄
一、朝鮮の獨立
一、領事裁判權の撤廢
一、平等條約の即時締結
一、商租その他鐵道附屬地等に關する諸案件交渉中のものを即時打切れ
一、明治二十四年以來日本に拂つた關稅事件賠償金を全額戻せ
一、臺灣を還付せよ

斯ういふ九箇條の要求を掲げて居る、これだけの要求を列べて、一つ日本が讓れば向ふは二つ要求して來るといふ風な譯で、どこかで衝突しなければならぬ。私はこの事に就いては、どうしても日本がこれよりは讓れぬといふ所まで迫つて刀の柄に手が掛るやうになつて來るといふことを述べて居つたのであります、恰も散々に侮辱されて、遂に淺野内匠頭が殿中に於いて吉良上野介に刄傷に及ぶといふ一幕が起るのであるが、日本もどうもそこ迄やらされることになりますぞと言つて一昨年から私は各地で講演して來ましたが、今回は恰も吉良上野介が或は鮒侍と嘲り、或は青瞹を顏にひつ掛けるまでやつて、さうしてまだこつちが刀を拔かなかつたものであるから、今度は吉良上野介の方から拔いて來た。（喝采）これはこつちが拔いたよりも餘程宜しいのでありますが、國際交通路を破壞して呉れました。而もそれが先刻から申上げる通り計畫的にやつて呉れたのでありますから、日本の爲には實に有難

い事でありました。

今の東三省日報といふのは政府の機關新聞ではあるけれども、一つの新聞の論調に過ぎませぬが、もつと明確な挑戰的態度は支那の要人に依つて續々と喋べられました。私が今年南京に行つて居る時でありましたが、蔣介石が今年の一月初めに演說を致しましたのに

『支那は現在危險に直面して居る、併しこれは同時に支那の獨立自由を獲得するのに好い機會である、危險とは即ち第二世界戰爭である、この世界戰爭は既に久しく各方面に準備を備へられ、いつでも爆發する迄になつて居るのである。この世界戰爭には佛蘭西、伊太利のみならず露西亞、獨逸も參加すべく、英國の君主政體はこれが爲に沒落するかも知れぬ、日本亞米利加の兩國も勿論戰爭に投ずるであらう、斯の如くして支那も當然參戰しなければならぬ（しなければならぬではない、支那が初めに手を出すのである。その事を私は言つて居りましたが果してさうなりました）

吾人は平和を希望する、和平に依つて獨立自由を獲得することを希望するが、併しこの試練時代に當づて吾人の責任は大である。若しこの際戰爭の準備が無かつたならば、必ずいざといふ場合に間に合はないのみならず、來るべき戰爭は必ず激烈であらうから、支那の受ける損害は必ずや甚大であるに相違ない。されど危險を冒さゞれば獨立自由の獲得は出來ない、不平等條約の撤廢は出來ない、故に斯ういふ時こそ吾等が死中に活を求めるより外方法は無いのである。黨部の同志、政府の同人はこの際特に努力奮鬪して革命遂行の使命を貫徹せよ』

といふ訓示演說をして居ります。これが挑戰的好戰的演說でなくて何であるか。又彼の王正廷が二月初

旬に『國民政府の對日政策』と題して斯ういふ演說を彼の鄉里の浙江省の慈溪縣といふ所に於いてやつて居ります。これは餘程注意すべき點があるので、今の滿鐵線の問題が出て來るのであります。

『本年中には領事裁判制度の撤廢、租界の回收、內河航行權の撤廢（楊子江や松花江を日本や露西亞の船がどん〳〵航行することを不都合だと言ふのであります）等が相當成功を收め得べく、殊に日本に對しては南滿鐵道守備兵を撤退せしめ、南滿地方の主權を回復すべく、若し日本がこれに應せざれば支那國民は一致してこれに對抗すべく、必ず軍事上の作戰計畫に依り、且つ軍器糧食を準備して一戰を交ゆるの覺悟を以て對抗せば日本は必ず屈服すべし』

斯ういふ御託宣である。これは彼が國民政府の要人として述べたから斯うであるが、本當の腹の中は、彼が猶太人に對しての他力本願で、國際聯盟を賴んで目的を達しようといふ考は彼の腹の中に必ずあつたに違ひない。日本を屈服させるには國際聯盟とか、日本の要人が恐れて居る亞米利加といふものを賴んでやらうといふ腹は十分にあることを、吾々は彼の言外に讀んでやらなければならぬと思ふのであります。

斯の如く吾々が踏んだり蹴たり、顏に唾を掛けられたりすることになつたのは一體どういふ原因であるかと申しますと、これは所謂人を見て法を說けといふことを失つて、支那の本當の人民性も何も理解せずして支那に對した我國の對支政策の誤りもあります。自主的でなく外國の顏ばかり見て居つて、日本獨特の立場からやらなかつた弱味もあります。一ま華盛頓會議に於いて、次に倫敦會議に於いて日本が英米に屈服し、六割國といふことに甘んじたといふことは、支那が日本を見れば實に『何だ日本はあんな事で凹まされてしまふのか』と思ふと、

日本に敬意を表するのは嫌になる。日本と親善するのが嫌になるのは當然だと思ひます。私も張作霖の顧問になつて呉れないかといふ相談を受けた事もありましたが、その時に私が大に考へましたことは、日本の政策が英米邊りに追隨してその屬國みたいな事をやつて居るといふと、支那から馬鹿にされてしまつてこれは逆も駄目だ。張作霖にした所で、日本がちやんと確かりして居ればこれに賴れるけれども、日本がぐら〳〵して居れば賴らうと思つても賴れない、英吉利や亞米利加の言ひ分で直ぐにブル〳〵と慄へたりするやうな人が政治外交の本をやつて居つた日には危くて賴れませぬ。日本の國是といふものが確立して居らぬ。國是の確立して居らぬのは即ち我國の國體といふものゝ認識不足の人達が政治を扱ふからさうなるのでありますが、兎に角我國が確かりした正義觀念に基いた腹が出來て國策が確立して居らぬから、それで右顧左眄することになるのであります。彼等が、常にグラ〳〵する蒟蒻みたいな日本に賴るよりは、日本の恐れて居る本家の方と直接手を握つた方が得だといふ考を起すのは、少し悧巧な者ならば、直に考へることである、これは實に日本の失態であります。

もう一つ特に强調しなければならぬことは、日本が自主的立場を失ふことがその原因になるのであります。國際主義と國家主義といふものに就いて大變誤つた觀念を有つた人が政治外交の衝に當り、又教育の衝に當つて居る。これが實に飛んでもない事であります。政治外交の事は今申さなくても宜しうございますが、教育方面に於けるえらい人達が、どうも國際主義と國家主義といふものに就いて、國家主義の方が低いものである、國際主義の方が上に立つものであるといふやうに教へつゝあるやうであります。今年の夏も京都帝國大學の國際聯盟協會の幹事をして居る男が私の所に遊びに來ていろ〳〵

話をして見ると、どうも學生等の考へて居るのは國家主義よりも國際主義の方に頭腦が傾いて居ります ぞといふことを私に報告して呉れました。今のやうな教育をして居れば自然さうなるのが當然と私は思ひます。今日如何でありますか、この國家の危機に際して、私も東京に於ても各所で講演をして歩きますけれども、學生や青年が聽きに來るのは少くて、（この席には隨分居らつしやるけれども）どうもそれよりは日露戰爭以前の人の方が多い。國家を奈何せんといふ考がどうも今の若い人達にはだん〳〵少くなつて來るのではないかといふやうな、實に暗い考を有たせられるのであります。

そこに至ると私は寧ろ支那の方に敬意を表せざるを得ない、學生が一生懸命で國威の衰へることを憂へ、軟弱外交と稱して外交部長王正廷を袋叩きにしました。（喝采）尤もさう申したからと言つて、私が日本の外交の衝に當つて居る人をどう斯うしろといふ風に誤解されると困りますが、祖國に對する熱意といふ點に至つては支那人の方がまだえらいと私は思ひます。凡そ一國の國運の隆々として揚る時には青年の士氣が先づ揚ります。日本に於ても森有禮といふ文部大臣を西野文太郎とふい者が大學生の分際を以て殺したことがあります。その事柄が善いか惡いかは別問題としまして、兎に角文敎の府にある文部大臣が、我が國體に對して、伊勢の大廟に對してあるべからざる行動をしたといふことを憤慨して、彼は賣名の爲でも何でもない、自分の一身を犧牲にして國體を擁護せんが爲でありませう、短刀を以て暗殺して直にその場に於いて自分も死んでしまつたといふやうな、一種の美擧であります。斯る時代には即ち我が國運が隆々として揚つて、神武天皇御創業の國威を海外に輝かすことになりつゝあつたのであります。我が帝國大學の中から國體破壞の犯罪人を珠數繋ぎにどん〳〵出すといふ風な現狀になつて來て、始めて日本が支那から虐められ、蹴飛ばされ、二十萬の血を流した所を返せといふやうな要求を受け、排日拒日をやられて居るのは、即ち國内がこんな狀態になつて、國家主義よりも國際主義といふことを謳歌するやうな狀態になつたからであると私は思ひます。

又一面から申しますと今日の世の中は餘りに人間の趣味が多くなり過ぎました。ラヂオだ、ジャズだ、野球だといつて騷いで居る。これも勿論決して惡いものではありませぬ、まあジャズなどは感心しませぬが、スポーツにした所でラヂオにした所で決して惡いものではない、けれどもこれを程度を超えて奬勵しますと變なものになつてしまふのであります。吾々の戰友同胞が滿洲の野に於いて實に身命を賭して今日やつて居るのに、何處でそんな事をやつて居るのかといふやうな氣持で、神宮外苑邊りに數萬人の若い人達が集つてやつて居るのは何の爲であるか。（喝采）變な例をお話するやうでありますが、吾々が軍馬にする牡馬を去勢してしまふ時にどうするか、先づ前脚と後脚を縛つてぶつ倒してしまふ、それから鼻捻といふものを掛けてギュウ〳〵鼻を捻る、痛いものであるから馬はそつちの方へ注意を集中して居る、すると獸醫が手早く刀を執つて、スッと金壹百兩を取つてしまふ、それが濟んで起上らせる、氣が附いた時には大事な金壹百兩が無い。（喝采）これと同樣にジャズだ、野球だ、早慶戰だと言つて、どつちが勝つたつて、ホームランがどうしたつて、そんなことは問題ではない。さういふ事に現を抜かして集つて居る間に、大事な愛國心も忠君愛國の思想も國家主義の思想も皆失つてしまふ。氣の附いた時にはもう已に遲しといふやうなことになるのでありますから、吾々は能くこの國際主義と國家主義といふ問題に就いて考へなければならぬと思ひます。

獨逸邊りでは今實に國家主義といふものが盛であり、國際主義とか、或はこれを超越したコスモポリズムを說くやうな敎授は大學でも講義が出來ない。先頃もボン大學の敎授がコスモポリズムを說き掛けると、學生が床を踏み鳴してガタ〳〵してどうしても聽かうとしない。それからその敎授は『諸君の態度は何だ、大學といふものは學問を研究して、人の說を能く聽いていろ〳〵批判すべきではないか』と言つて窘めると、その時は仕方がないから小言が濟んでしまふ迄默つて居るけれども、又萬國主義の話になるとガタ〳〵とやつてどうしても講義が出來ないやうにする。遂に敎授も怒つて原稿を投げつけて歸つてしまつたといふことであります。斯ういふやうに國家といふものが現實の最も大事なものであるといふことを能く考へなければならぬ。この間文部省の學生部長に會つて話を聽いて見ると、今左傾して居る青年や學生の中には、國家といふものに就いての考がまるで違つて居る。國家ナンといふものは一つの抽象的のものであつて、丁度社會とか階級とかといふ風なものと同じやうに、何だかパッとした取止めのないものだと思つて居る者があるさうです。さういふ連中が大概左傾して國際主義に趨るといふことであります。焉んぞ知らん國家といふものは、玆に描きましたやうに、

【國皇】　（神）（道）（君）（臣）（土）

【國外】　人利（主）（民）（土）

外國の思想で申すならば、先づ領土があて、そこに集つた人民があり、そこに主權といふつものがあつて、これで一つの國を成して居る。外國はこれだけで宜いが、我國の國家は、神と道と君と民と領土といふ五つの要素がなくてはならぬ。而もその國家の成立する順序は外國のやうに人民が利益の爲に造つたものではなくして、神樣が道の爲に、道義の爲に我國をお建てなされたといふ實に尊い國家であります。

要するにさういふ國家の有難味といふものを日本人は氣が附かない、餘りに日本の國家の內にばかり住まつて居つて、一回も外國から爆彈を投ぜられた事も無い、僅かの人が元寇の亂でやられたとけであつて、本當の外寇といふものを受けた事が無い。さうして他の國のやうに生命財產の不安定といふこともなしに、現在支那の人民のやうな目に遭つた事も無いものでありますから、餘りに國家の恩義に狎れてこれを忘れてしまふ。それは恰も吾々が日々空氣を吸ひ水を飲んで生きて居りながら、餘りに容易にこれが得られる爲に、有難いものであるに拘らず恩義を感することが少い。これが一たび大震火災のやうな場合に遭遇すると、水道が壞れてしまつて水が無い、泥濘の水まで飲んで渴を醫したとか、煙に捲れて逃げ廻つて漸く三宅坂の邊まで喘ぎ〳〵辿りついて、始めて空氣の有難味を感するといふやうな事があるのでありますが、日本の今の青年などは日露戰爭の後の有難い御代に生れて、國家の有難味といふものを、あまりに廣大なものであるからこれを感じないのであります。これは吾々がどうかして努力して、國家の恩義に感するといふことを大に敎へなければならぬと思ひます。

國家主義と國際主義に就いてもう一言を費して置きますが、世界大戰の勃發の時に血祭にされたジャン・ジョーレスといふ男が言うて居るのに、

『人若しなまじつかに國際主義を聽き嚙ると、頭腦が國家から離れ去るものである。然るにもつと〳〵深く國際主義を研究して來ると頭腦が再び國家に立戻るものである』

と言つて居りますが、これは味ふべき言葉でありまして、今日本の内でもなまじつかに國際主義々々々々と言つて居る連中は、自分の國家の利益をも犠牲にしてしまつて、國際主義の爲に盡さうといふ人達は、これは實に國際主義をなまかじりして居るものであるといふことを私は斷言して憚りませぬ。

どうもこの頃日本には「國際」といふ言葉が流行り文句になつて居るやうであります。少し前までは「文化」といふ文句が流行つて、やれ文化住宅、文化村、文化瓦、文化饅頭、文化丼などと言つて居りましたが、それが無くなつたと思ひましたら今度は國際主義、國際聯盟、國際聯盟協會、國際オリンピック、汽船でも第一國際丸、第二國際丸などと言つて何でも國際といふ字を附ける。鐵道省には國際觀光局といふのが出來て、異人さんを呼んで來て金を使はせようといふ。國際といふ字が非常に新しいものゝやうになつて居る。先頃私が關西の方に行つた時に、あまりに大きくない運送店で貨物自動車を一二臺しか持つて居ないのに、國際運送店といふ看板を掲げて居るから、何をするのかと思つたら、山域國と近江國の間を國際運送をやるのだといふ。(笑)實に驚き入つた事を見ましたが、さういふやうな工合に、國際といふ字を附けると景氣が好い、進歩的だ、國家などといふのは舊い「まだあの男は國家に頭が低迷して居るか、彼は二流三流の頭の惡い奴だ」。國際主義を口にする方は頭の案外惡い者でも、「いや彼は頭が進歩的だ、鋭敏だ」と言つて稱揚される。さうして大學の先生などもこれに良い點を附けるといふことになる。これは即ち前から申した秘密結社のさういふ風に國際主義を譯もなく强調させる一つの手でありまして、國家の有難味を無くさう、その影を薄くしようといふ一つの努力がだん〳〵と現れて來つゝあるのであります。その點に就いて皆樣の十分御考慮を煩したいと思ひます。

これで大體私の申上げようと思つたことは述べたのでありますが、國際聯盟といふものに就いても一言申して置きたいと思ひます。近く理事會が又開かれていろ〳〵議論するでありませう。その際に日本が苦しい立場にも置かれるでありませうが、日本は斷乎として一つの自信力を以てやらなければいかぬ。決して餘計な血を流したり何かすることはありませぬ。我が大日本帝國は神武天皇樣が國をお啓きになり大和を御平定になつた時から『及に蝦らずして天下を平定すべし』と仰せられた通り、徒に流血するといふことが我國の主義ではありませぬ、流血を見ずして治めるのが一番宜しいのであります が、たゞ最初にも申上げた通り、なまじつかの解決をして、斯樣な紛爭が再び三たび頻々として起るやうでは相成らぬ、一つの腫物を潰して吸出膏を貼つたり、膿を押出したりする位では濟まない、腫物の根まで出してしまはなければならぬ。それには內服藥までも服んでこれを根治してしまはなければいけないのであります。でありますからどうかして支那といふものを覺醒せしめて、玆に所謂雨降つて地固まるといふやうなことになれば宜しいのであります が、一體支那をあまりに爛て過ぎたのであります。支那はこの間理事會に入つたばかりである。一體支那は理事會などに入る資格があるかどうか、本當を言ふと日本などは反對投票をして宜しいのでありますけれども、隣り合つて店を出して置いて、どうも隣りは資格が無いからと言ふのはあまりに酷いからといふので、聯盟總會で全會一致で理事に選んでやつた。五十五箇國の聯盟加入國の中から十三箇國の理事國を選ぶのでありますから、餘程精選しなければいけない、前にもお話した通り馬賊納稅濟の旗を立てゝ歩いたり、兵匪と稱してどちらがどつちだか分らなかつたり、馬賊の一千名、大砲を持つたものがあつちこつちに橫行したりするやうな、そんな國

がどうして理事國などになれますか。支那の代表者は會議に行くと、「苟くも吾々は四億の人口を代表す、即ち地球人口の四分の一を代表して居る」と言つて威張つて居りますけれども、聯盟成立以來少くとも私の居つた時分には、支那は聯盟の會費を一文も納めたことが無い。これは各國が聯盟の分擔金といふものを何十萬圓と納めることになつて居りまして、日本も今日まで一千萬圓ほど納めて居ります。日本などはチャン〳〵と納めて居りますが、支那は一文も納めない。會費は納めないで置いて、出て來れば「地球總人口の四分の一を代表する」と言つて威張つて居る。さうしてその國内の狀態は、毎年政府があつちこつちに出來たり亡びたりして居る。丁度或る時聯盟に來て居る人が支那の代表を捉へて、「君は頻りに四億の人口を代表して居ると言ふけれども、一體何處の政府の代表ナンだ。君の國には幾つも政府があつて統一されて居らぬやうだが、何處の政府の代表か」と言つて質問した。急所を突込まれてチョッと困つたやうでしたが、なか〳〵支那人といふものは辯舌は巧みでありますから、すかさず答へました「エ、、それはそのあなたの國が私の國に大使を送つて居るその政府であります」と言つて逃げてしまつた。(笑)なか〳〵狡い所があります。併し他の國からはその位にしか見られて居らぬ、統一の出來ない國である。こんな國が果して國際聯盟の聯盟國たる資格が有るかどうかも一應詮議して見なければならぬ譯で、國際聯盟規約の第一條には何と書いてありますか

『附屬書ニ列記セサル國、領地又ハ殖民地ニシテ完全ナル自治ヲ有スルモノハ其ノ加入ニ付聯盟總會三分ノ二ノ同意ヲ得ルニ於テハ總テ聯盟國ト爲ルコトヲ得』

と書いてありますが、支那は完全な自治といふものになつて居るかどうか、主權が何處に在るか、今申したやうな有樣であつて、實に聯盟の一國とするさへもまだ〳〵早過ぎたのである。況やこれを理事にするなどは飛んでもないことである。所が今の世界の秘密結社の人達が支那を煽て上げて、これを以て日本に對抗し、又事に依つたら露西亞と提携せしめて、支那に產業十年計畫といふものを立てさせて、それを擁護して日本邊りを酷い目に遭はせようと考へて居るらしい。そのお先棒になつて居ると私が認めて居るのは彼の代議士になつて居る田川大吉郎君などであります。あの人が國際聯盟協會の發行して居る『國際知識』といふ雜誌の今年の八月號かに、この世界の大動亂をチャンと押へつけて埒をあけるのは明日の支那であると言つて居ります。どうも支那を煽てるにも程がある。自分の國はまだいつ統一が出來るかゴテ〳〵して居る國が、明日の日にも支那が世界の動亂の埒をあけると言つて居る。そんな事を承認してしまふならば大和民族の使命は何處へ行つてしまふか、神武天皇樣が『六合ヲ兼テ都ヲ開キ八紘ヲ掩ウテ宇ト爲サン』と仰せられた、これが我國の使命である。それを支那がやるのだぞといふことを雜誌に書いて支那を煽てゝ居る。實に齒の浮くやうな禮讃であります。それは即ち世界の秘密結社がさういふことを考へて、今十年計畫を頻りに立てさせようとして居る。それをあれ等の人達は如何なる方法かに依つて、この秘密結社邊りの計畫を御承知になつて斯樣な事を述べ立てゝ居るので、對支不干涉同盟などと言つて、支那には干涉するな、支那がやるだけやらせろといふ主義に出て居るのだらうと私は思ふのであります。

國際聯盟規約の前文を見ると何と書いてありますか、

『締約國ハ戰爭ニ訴ヘサルノ義務ヲ受諾シ各國間ニ於ケル公明正大ナル關係ヲ規律シ各國政府間ノ行爲ヲ律スル現實ノ規準トシテ國際法ノ原則

ヲ確立シ組織アル人民ノ相互ノ交渉ニ於テ正義ヲ保持シ且嚴ニ一切ノ條約上ノ義務ヲ尊重シ以テ國際協力ヲ促進シ且各國間ノ平和安寧ヲ完成セムカ爲茲ニ國際聯盟規約ヲ協定ス』

と書いてあるではありませぬか、『戰ニ一切ノ條約上ノ義務ヲ尊重シ』とある。然るに支那が斯樣な條約を蹂躙する行爲を頻々と行つて、我國から抗議を申込んでも知らぬ顏をしてどん〳〵鐵道を敷設してしまふといふやうな條約を蹂躙する國が、如何にして國際聯盟の精神に合致し得るか。又『國際協力ヲ促進シ』といふことがあるにも拘らず、前にも申した通り排日の爲には小學校の教員が總掛りでやつて居る。この間も私は上海へ行つていろ〳〵の材料を持つて來ましたが、その一二を御紹介致しますと、小學校の教師と兒童の問答であります。

問　汝は中國を愛するか

答　中國を愛します

問　山東の最大の敵は誰か

答　日本人であります

問　朝鮮、臺灣、琉球は元來誰のものか

答　中國のものであります

問　現在朝鮮、臺灣、琉球は誰に奪はれて居るか

答　日本に奪はれました

問　旅順、大連は何處に在るか

答　奉天省にあります

問　誰に强奪されたか

答　日本に强奪されました

問　二十一箇條を提出して山東を强奪したのは誰か

答　日本であります

問　青島を占領し膠濟鐵道を管理したのは誰か

答　日本であります

問　日本は久しく山東及び東三省を占領せしこ

とを汝は知れるか

答　知つて居ります

問　最近濟南事件に於いて日本人が我が同胞幾千人を慘殺したのを汝は忘れたか

答　決して忘れませぬ

問　日本人は支那に於いて暴力を以て掠奪强姦をなした、汝は殘念に思はぬか

答　殘念であります

問　然らば吾々は日本に對してどうすれば宜いか

答　日本を打倒します

（打倒するといふやうな事と國際協力を促進するといふことゝ兩立致しますかどうですか）

問　日本の人口は幾らあるか

答　六千萬に過ぎませぬ

問　中國は日本に比してどうであるか

答　數倍します

問　中國の土地を日本に比較したらどうであるか

答　二十幾倍に當ります

問　日本は人口多からず土地亦小なり、それでも汝等は日本を恐れるか

答　決して恐れませぬ

問　日本を打倒し中國の爲に恥を雪ぐのは專ら汝等に待む所であるが分つたか

答　分りました、一分一秒たりとも忘れませぬ

斯ういふやうな事を小學校の教科書の教師用にチャンと書いてありまして、毎日この通りやらせる。これで日本を打倒しようといふやうなことを兒童に教へ込んで居る、それを何故國際聯盟が默つて居るか、實に國際聯盟なるものは眼が無いと謂はざるを得ませぬ。この間も新聞に漫畫が出て居りましたが、支那といふいたづら小僧がいたづらをして日本

の小父さんを怒らして置いて、愈々「この野郎ッ」とやられると早速國際聯盟の小父さんの所に駈つけて「小父さん、あの人が私を打ちました」と言つて訴へて居る、そんな事を直ぐ輕卒にも取上げて、日支兩國同時に撤兵なさいなどと言ひ出す。撤兵したら滿洲の土地がどうなるか、たゞさへ秩序が亂れて居る、況んや今日の如き狀態に於いて日支兩軍が同時に同じやうな立場でやれと言ふ、實に不都合なる聯盟なりと謂はざるを得ませぬ。斯る不都合なる聯盟ならば、日本は斷然何等の危惧する所なく脱退すべきであります。（喝采）

國際聯盟の創立功勞者の一人であるレオン・ブルジョアといふ老人が曾つて聯盟論を書いた時に言つて居ります、

『正義の無い平和は支配であつて眞の平和ではない。

正義の爲の平和こそ國際聯盟の眞の仕事であつて、決して平和の爲の平和ではない。』

と言つて居ります。今の國際聯盟はこの創立者の意見を忘れて、たゞ平和の爲の平和、何でも武器は使はぬ、軍縮をやらうといふだけで、そこに正義が起らうと不正義が起らうと、何でもかんでも兵を動かした方が惡いといふやうな判斷を下すのは實に不都合千萬な聯盟精神の沒却であります。

尙この問題に就いて私は昨日手にしたばかりの猶太人の情報を少しお傳へしたい、猶太人は日支の紛爭に對して上海邊りで斯ういふ態度を執つて居ります。

『吾々は日支孰れの側にも立たない、吾々は政治問題を避けて公平なる觀察者を鼓舞する公明正大と不偏不黨の上に立つからである、吾人は亞細亞の二大國民が武力鬪爭に沒頭することなく、紛爭を平和的に解決することを祈つて止まない、又吾人は日本國民の最良分子（これが曲者です、日本國民の最良分子とは彼等は何を指して居るか、この秘密結社に關係のある連中を指すものと私は見て居ります）が彼等軍閥の好戰的態度を默認し、これに好意を寄せることなく、寧ろ戰爭といふ總ての行爲を否認することを祈つて止まないのである』

と言つて居ります、對支不干涉同盟の連中とか、田川大吉郎君などは所謂最良分子の方である。更に進んで、

『戰爭は破壞の科學である、それは惡魔の牧獲時である、これは地上に於ける平和と人類最高の理想を養ふべき何等の道德も效果もない、總ての善男子は　且つこれを公然攻擊しなければならぬ、平和の唱道は今日より急なるはない』

斯う言つて反戰運動を鼓吹して居る。前の方には吾人は日支孰れの側にも立たずといふことで書起しながら、支那に對して如何なる要求をして居るか、たゞ日本に對してのみ要求して居る。實にこれ等は彼等が支那を煽て、田川大吉郎君などのやうに、明日の世界の埒をあけるものは支那だといふこの考で來て居るものと思ひます。「日本の好戰的な軍閥」と言つて、軍閥に對する反感をそゝるべく作つてある、實に嫌な文章であります。

そこで私が猶太の經典のエレミヤ書といふものを讀んで見ると、その第九章に、神樣が猶太人に對して、似て非なる平和論を眞向ふから排擊して、こんな事であるから神は貴樣の國を亡してやるぞ、眞に眼覺めた時にはお前の國を復興さしてやるけれども實に不都合な奴だと言つて、エレミヤといふ豫言者の口を通してエホバの神が猶太人を排擊したことが斯ういふ文句で表はれて居る。

『彼等（猶太人）の舌は毒箭の如し、彼等は唯僞りのみ語る、彼等は友達に向つては口に平和を

説きつゝ密かに陥井を造るのである』

とあります。實に面白い、これを讀んでもう一度前の日支紛爭に對する猶太人の聲明書を讀むと、彼等の態度が明かに分る、實に彼等は口に平和を説いて居りますけれども、實は戰爭の本當の原因を造つて居るものと私は看做して居る。經濟國難を拵へ、失業者を拵へ、列國の間にどうしても國際關係が紛爭して、遂にこれが打破られなければならぬやうなことになつて來るのは、彼等の努力が與つて大なる力があるのでありますけれども、彼等は口にはこれを否認して居る。この二重の態度が彼等の始終執り來つた態度であります。

アインシュタインといふ猶太人の博士が、昨年でありましたか、大分國際關係が危くなつて來た、どうしても猶太人は陣頭に立つて平和運動をしなければならぬといふので、猶太平和協會といふものを拵へるから、世界各國の猶太人は一人も殘らずこれに加入せよ、會費は一マーク（五十錢）を納めろといふやうなことをやつて居ります。これは表面から見ると實に猶太人が平和に寂々として努めて居るやうに見えます。併し彼等は裏面に廻つて世界革命といふものを起すべく努めて居る。第三インターナショナルが今やらうとしつゝあるのはこれである。即ち戰爭の機會を提へて革命を起さうとしつゝある。さういふ計畫を裏面に於いてやりながら、後になつて責任を免れる爲に、證據湮滅の爲に斯ういふ運動をやつて居るものと私は睨んで居ります。丁度今から二十年も前になりますか、私の若い時に東京の麹町に野口男三郎といふ男が臀肉切りをやつた事件があつた。自分の情婦が血統の良くない病氣になつた、それを癒すには人の臀肉を切つて食つたら宜いといふので、女の獄心を買はんが爲に人の肉を食はせようとした。その兇行を彼が決心した際に、チョット何かで自分の指を傷け、繃帶をして首に吊つて近所を歩いて、「俺はこんなに怪我をしちやつた」と言つて吹聽して警察官や近所の人の手前をスッカリ繕うて置いて、その晩になると繃帶をかなぐり捨てゝ兇行を演じて、臀肉を切つて自分の情婦に食はしたといふ事件がありますが、私はアインシュタインの今の運動や、或は絶對平和論を唱へて反戰運動を彼等がやつて居りますことは、彼等の一つの證據湮滅である、猶太人が平和の攪亂者であるといふことを言はれるのを防ぐ爲の伏線である、これは野口男三郎の繃帶だと私は見て居ります。（喝采）これは私が言ふだけではない、猶太の神樣エホバがエレミヤ書に言つて居る『彼等の舌は毒箭の如し、僞りのみ語る、口に平和を唱へて陥井を造るものである』といふ猶太の經典は何ものよりも明白にこれを物語つて居ると思ひます。

斯る僞善的の平和運動やあらゆる陰謀の中に入つて、今や吾々は國際場裡に孤軍奮鬪しなければならぬ狀態であります。さうして吾々が眞の正義に立脚し、斯る不條理な支那のやり方を晴天白日の下に曝け出してこれを諒解せしめれば、列國と雖も承認しないことは無い筈であります。たゞその自覺が足らず、研究が足らず、吾々自身が確りした考を有ちませぬければ、況んや外國人にこれを有たせることは無理であります。吾々が滿蒙の事を知らずして歐米人に滿蒙を知れと言つても無理である、恐らくこの間中慌てゝ聯盟理事會などで決議をした連中は、滿洲の實情はどうであるか、日露戰爭の時に支那はどういふ態度を執つたか、そんな事は知りはしない、歴史的にも軍事的にも殆ど事情を知らないであらうと思ふ。であるから先以て吾々はだん〳〵と時局の切迫して參りますこの滿蒙問題に就いて知識を進め、確りした國論を造りまして、この國難に對しますならば、少しも恐れる所はないと思ふのであります。

明治天皇樣が明治元年三月十四日億兆安撫國威宣布の御宸翰を賜りました、その中に

『朕徒ニ九重ノ中ニ安居シ一日ノ安キヲ偸ミ百年ノ憂ヲ忘ルル時ハ、遂ニ各國ノ凌侮ヲ受ケ上ハ列聖ヲ辱メ下ハ億兆ヲ苦メンコトヲ恐ル』

と仰せられ、又續いて

『一身ノ艱難辛苦ヲ問ハズ、親ラ四方ヲ經營シ汝億兆ヲ安撫シ遂ニハ萬里ノ波濤ヲ開拓シ國威ヲ四方ニ宣布シ天下ヲ富岳ノ安キニ置カンコトヲ欲ス』

と仰せられましたが、明治天皇樣はこれを御實行になつたのであります。東北御巡幸は丁度今から五十年前である、一身の艱難辛苦を問はず自ら四方を御經營遊ばされました。億兆を安撫なさいました。遂には萬里の波濤を開拓して國威を四方に宣布せられました。併ながら天下を富岳の安きに置かんことを欲すといふ思召でありましたが、そこ迄に至らずして御登遐になりまして現在吾々の代になつて居るのであります。吾々はどこ迄も明治天皇樣が『天下ヲ富岳ノ安キニ置カンコトヲ欲ス』と仰せられたこの大御心を如實に實行すべく、即ち大和民族の使命を達成すべく努力しなければならぬと思ひます。

今や我國は前から申す思想國難、經濟國難及び戰爭國難といふ三種の國難に直面致しまして、吾々は萬感胸に迫るものがあるのでありますけれども、併ながらこれ等の國難は國民の決心如何に依つて幾らでも打開して行き得る可能性のある問題であります。吾々は諸君と共にどこ迄も正義に立脚して、世界の眞の平和の爲に、大和民族の使命を完ふすることに奮鬪努力を致したいと考へる次第であります。

（喝采）

大變時間を過して恐入りましたが、最後まで拙なき講演を熱心に御聽講下さつたことを感謝致します。（拍手喝采）（完了）

日生上人を憶ふ

（其五）

今樣太公望

（本多日生師の逸話の五）

松尾清明

『この頃、チョイ〳〵この庭に鷺が來るやうになつた、これは庭池の小魚を捕るためである、鷺といふ鳥は熱心なものであつて、小魚が捕れる迄は半日でも一日でも、恰も繪に描いたものゝやうに、彫刻でもしたものゝやうに、微動もしないでヂッと水面を眺めて辛抱する、魚を捕る爲の鷺の熱心は吾人の學ぶべき點がある』日生上人は自坊妙國寺の居間に閑然として鷺の本能を說くのであつた。

二三日してから自分は妙國寺に本多師を訪ねた、頃しも小春日和暖く、師は先の日鷺の停りし臨水の飛石に腰うちかけてうづくまつて居らるゝ、予は不思議に思つて近寄つて見たら、日生上人が太公望をきめこんで居らるゝ處であつた、これはけしからぬことだや、天下の名僧とも云はるゝ人が、殺生をして樂しむとは合點のゆかぬことぢやと、思ひつゝ『先日の鷺を眞似るのですか』『あまり氣が屆するから釣の眞似をして遊んで居るよ』『暫く拜見』どうも見る竹切れ、糸は木綿の縫糸、針は木綿の縫針を横にして縫尖は取除きありて、その針の中央を糸にてシカと丁の字にくゝり横針の兩端に餌さに飯粒を差しありて、頗る不細工の格恰である『そんな針で釣れま

すか』『二三尾釣れた』やがて釣り上げた魚は元の池に放ち『これで氣が散じてホッとした』夕陽斜めに窓にさして落葉は黄溢して大地をうめた。

『太公望は直針を以て釣りしたやうに傳へて居るから俺もこの傳說から工夫して見たが、どうも釣りにくいものである』。

先日の賢の辛抱も、此の公望流の直針も何れは人間に辛抱を教へたものと思へば面白い。

身延詣の日生上人

なにがし

ある人等の間に於て、自分共が身延に參詣すれば誘法だとか、中山に足踏みするは間違だとか、池上に近付くはフラ〳〵だとか稱して自宗の一小派内に籠居し朝から夜眞中迄も南無妙々々々と騷ぐのが尙の道念堅固のよい信者だと鼓吹されて居ることを見聞するが、日蓮門下とはそんな偏狹固陋なものなんであらうか。

教義の解釋方に就ては各自異論はあつても、それはそれ、聖蹟は矢張り靈地である筈。「袋汚しとて金を捨つる勿れ」だ、「伊蘭を惡まば栴檀ある可らず谷の池を不淨なりと嫌はゞ蓮を取る可らず」假令へいかに不德の番人が居る山にしても、大聖の靈蹟は其處に自分共には大きな感激をヒシ〳〵と刻み込まるゝ。

往年　本多日生上人元氣旺盛の時、天晴會員中の有志若干と祖廟參拜された際の思出を一つ記して見よう。其頃は身延の山も今程には俗化といへば語弊があらうか文化的ではなく、幾分でも昔のよすがを偲ぶ便りも滿更ではなかつた。

客殿を出られた　日生上人は皆々一行徐ろに御草庵跡に歩を移された、やがて御草庵の數十間手前に來ると　日生上人はピタリッと立ち止まられた、ハッと氣付く間もなく堂々たる偉軀の衣儀を直し、草履を其所に打捨てゝ一歩二歩三歩と眞白の足袋跣足のまゝ、ヂックリ濕れる山土の上をシッカリ踏み締めつゝ肅々と唯一人、象牙の數珠を手にしつ御靈蹟に近づかれた。嗚呼何といふ森嚴莊重サ！

身は大僧正一宗の管長で且つ最も全盛時代である、殊に從來はあまり多くの人達にさへ省みられず忘れ勝とされた御草庵跡に、恭しく涙ながらに土下座されたその　大聖を敬慕さるゝ心情には心なき者さへも感動するであらう、爾來此御靈蹟に對する一般の態度が全く激變したといふ。何と美しい貴い事ではあるまいか。

時局と日生上人

吉岡正太郎

時局は進展　日蓮聖人『立正』の立こそ力あるを覺えしめ申候　民國の心ゆき『教ふるに道を以てせねば』と痛感致申候　皇軍の出動は仁者の勇　釋尊金言の『却て福報を獲るもの』なるべく第三國の認識不足に對しては幾度にても懇ろに其蒙を啓くに吝なるべきでは無之　聽ては『猪の金山を摺る』の譬の如く　又輪王の圓を仰ぐが如くなるべく信じ申候

右につけても　故日生上人及日慈上人の鳳聲今も在す如く己が今日の心强さを得たる恩を想ひ感涙相催申候

法華經の信解（上）

聖應院日生上人

一、緒言
二、宗教の信解

目次

一、緒言

從來法華經はむづかしいお經であるから、一般の人には信解し難きものであると言つて、所謂難解難入といふ言葉を誤解して、到底吾々の手に及ばないものである、恰も猶に小判のやうなものであるといふやうに、祭上げてこれを貶すやうな考が今迄で

隨分強く行はれた。殊に淨土門一流の人々はさういふことを盛に言つて、法華經を讃めるやうな言葉で大にこれを貶したものである、「千中無一」、ナンと言つて、千人法華經を修行しても一人も得る者は無い、疲れ損だといふやうなことを盛に言つたものである。さうして日本人の大多數はこれ等の言葉に騙されて、法華經は結構ださうだけれども、吾々には手が屆かぬ、斯樣に考へて居る者が今日でも澤山あるのである。

併ながらそれは非常に間違つた考へ方である、無論何事でも、容易に達せられぬと言へば達し難い所はあるけれども、そこに吾々の學んで行くべき途といふものはちやんとあるのである。何でも達せられぬ、わからぬと言へば、結局一切の事は不可知論に陷り、懷疑に陷つてわからぬことになるのである。法華經の如きもさういふ風な意味で、故意にこれを貶さうと思へば、それは何も法華經に限るものではない、どんなお經でも、どんな事柄でも、この世の中に存する百事萬物、一切がわからぬといふことも言ひ得る譯である。さういふ風に徒にものを貶すやうな思想を以つて法華經を批評し、又多くの人々がそれに引摺られるといふことは悉く迷妄であつて、吾々が正しい意味に法華經を信解せんとする場合には、何の關係も無い愚論である。

又一方法華經を信心する側の人はどうであるかと言へば、これは又法華經は但信口唱であるといふことを誤解して、但だ信心して口に唱へさへすれば宜いのである、義理も知らず味合も知らず、何にも知らないで宜い、たゞ有難いと思込んで南無妙法蓮華經と一生懸命唱へさへすれば宜い。法華經はどんなものだナンといふことを考へる暇があつたら、その間にお題目の百遍も餘計唱へた方が得ぢやといふやうな意味から、所謂チャキ〳〵法華、ドンドコ法華といふものは唯だ題目ばかり唱へて居る。「お前いつたいお題目といふものはどういふものだ」「どういふものも斯ういふものもあるか、そんな事を言ふ奴が怪しからぬ、お題目の內容に入つてどこが善いの惡いのと、そんな巫山戲たことを言ふ奴はどづき上る……」といふやうな調子で、たゞ法華經といふものを外部輪廓から有難いと考へ込んで、所謂盲信してしまつて、何等內容を理解しない。ちようどお宮にお詣りをするのに、そこに何の神樣が祀つてあるのかわからぬけれども、外部の扉がピカ〳〵光つて居るから有り難いのだと言つて頭を低げる。斯ういふ風な意味合で但信口唱といふことを非常に誤解して、さうして盛にこれを擔ぎ廻つた爲に、法華を修行する方の側に於ても、法華經の內容に對する信解といふものは殆ど忘れて居るやうな狀態である。

その他法華經の敎を宣傳した側に於ても、無論高僧碩德が出られて、天台、妙樂、傳敎等の諸先師が法華經の深遠なる哲理を敷衍し、且つこれを發揮せられたのであるけれども、これ亦一流の法華經觀であつて、或は摩訶止觀のやうな、殆ど普通人の知識からは手の屆かぬやうな所に押込んで、さうして法華經はむづかしいものだといふ惡口を言ふ材料を與へたやうな觀もある。

日蓮聖人の如きは無論法華經の正統を發揮せられた譯であるけれども、やはり時代の影響といふものは如何なる偉人もこれを受けるのである。日蓮聖人の當時盛なるものには淨土宗あり、眞言宗あり、禪宗あり、これ等が偉大なる勢力を有つて居つたが爲に、そこに新に宗旨を開創する必要上、眞言宗との接觸關係を執つて、當時眞言宗の有して居るやうな長所はこつちも有つて居る、「お前の店で賣出して居る品物よりも良い物がこつちにあるぞ」といふ風な關係は、どうしても執らざるを得ない所がある。淨土門に對しては、淨土宗で有難がつて居るやうな意味合は法華經にある、寧ろモツトそれより上等な

ものがあるといふ風に說明して行く關係上、例へば今の唱題口唱といふやうなことは、淨土門が稱名念佛と言つて、たゞ南無阿彌陀佛と言ひさへすれば助かるといふやうな主張に對して、南無妙法蓮華經を唱へさへすれば宜しいといふ思想は、淨土門一流の偏つた言ひ方に多少引摺られて、さういふ風になつて居る所がやはりあると思はれる。又眞言宗の阿字觀のやうに、言葉が有難いと言ふその主張に對抗して、南無妙法蓮華經といふ文字が有難い、言葉が有難いといふ思想が、盛に日蓮聖人に依つても唱導されて居る。又曼荼羅が有難いといふ思想も、眞言の兩部曼荼羅の思想から影響されて居るのであるが、この十界圓具の大曼荼羅を圖顯せられたことが一番有難いやうに、日蓮門下の學者達も今尙ほさう考へて居る。その他又天台の影響を受けて、理窟のやうな所に落込んで行く傾も日蓮教學の上にはあるのである。それがその儘同違ひであるといふ譯ではないけれども、法華經の正統思想といふものを了解する上には、さういふ宗派的の關係といふものは第二の議論にならなければならぬ。眞言に對し、淨土宗に對し、天台に對し、その他の宗旨に對抗する上から、それに對して斯うだ、あゝだといふ關係を說明する上から起る教義といふものは、法華經の直系から考へる思想に於いては第二に屬すべきものである。それが惡いとか、間違つて居るとかいふことではなくして、一番大事な根本の法華經直系の思想でないといふことだけは了解して置かなければならぬ。

併ながらさういふ分界を明瞭に立てゝの日蓮教學の研究、又法華經の信解といふものゝ正義に達して居る人は、今日は先づ少いのである。不肖は多年の教學研鑽の結果に於て、何事を論じても、その意味合に於ては先づ軌道を逸しないつもりである。自分はさういふ自信を有して居る譯であるが、今茲に『法華經の信解』といふことを語るに就ても、さういふ意味から考察を遂げて居るのである。決して先師の思想を蔑にするやうなことは無論ある譯ではないけれども、併したゞ傳統的思想に囚はれて譯もなく盲從的の意見を吐くのではない。自分自身が法華經を研鑽した上に於て、無論それには日蓮聖人の指導天台、妙樂、傳教の教判の尊いことを參考としてゞはあるけれども、自分の法華經に關する正信正解は斯の如きものであるといふ立場に於いて講進して見ようと思ふのである。

それに就いては先づ最初に多少準備的のお話をして置く必要があらうと思ふ。第一に、

二、宗教の信解

といふことを說明して置きたいと思ふ。

宗教の全部を迷信のやうに言ふ傾向が、日本の教育者などには從來多くあつたやうである。加藤弘之氏なども、宗教は悉く迷信なりといふことを申したことがある。宗教といふものには多大な迷信の部分が附着して居るには違ひない、併ながら宗教全部が迷信であるといふやうな斷定は大に誤解が伴つて居るのである。左樣なことを斷言する人は、文明を研究し、思想を考究する上に於て大きな誤謬を有つて居るものである。加藤弘之氏その人は、一方から言へば有力な學者であるけれども、一方から言へばさういふ謬見者である。然るにその影響を受けて、日本の教育者などは多くは、迷信はいけないと言つたならば、それを以つて總ての宗教を攻擊し了つたやうな考で居る、「迷信はいけませぬ」と兒童に教へたならば、何もかも一切の宗教を罵倒し了つたやうなつもりで居るのである。小學校の教科書の中にも、迷信はいけませぬと書いてある、「皆さん、迷信をしてはいけませぬ」、斯う言へば宗教全部を葬り去つたもので、そこにはモウ宗教を信ずる餘地は無いのだといふやうな勢ひでやつて居る人もある。併ながら

さういふ幼稚な間違ひは、日本の文明を建設する上に於て一日も早く除去らなければならない。

いつたいどういふ點が宗教の迷信であるかといふことは、それ〳〵これを決定するところの基準といふものがある譯である、決して宗教の全部を直に迷信であるといふやうなことが言ひ得らるべきものではない。寧ろ現代の多くの人は、知識の問題に就ては科學過重といふ迷信に陷つて居る、科學の知識を重んじ過ぎて居る、これは一種の謬見に陷つて居るのである。

科學の知識といふものは正しいものであり、勿論尊重すべきものであるけれども、この哲學或は宗教に關する場合、科學の知識はこれを判斷する力の無いものである。科學の知識は形而下の知識と申して、形のあるものでなければこれを判斷することの出來ないものである、或は實驗的の知識と申して、顯微鏡にて照すといふか、望遠鏡で覗くといふか、吾々の感覺的知識に依つて實驗し得られるものでなければ科學の知識とはならないのである。それ故に科學の知識の大部分は自然界に屬する即ち物質に關する知識である。精神の方面に於ては、その精神が働いて出る心の作用に就ては、心理學として科學の取扱が出來るけれども、その心の奥、心の本體本質といふことになると、それは實驗觀察が出來ないから、科學の知識といふものは手を出すことが出來ないのである。であるから醫者は人間の身體の研究はするけれども、人間の精神といふものは一切わからない、その品物を眼の前に見ることが出來なければ判斷することの出來ない知識である。それは即ち科學の知識は實驗觀察の知識である、形而下の知識であるといふことはわかり切つたことである。

さうすると人間の靈魂といふやうなものは形の無いものであつて、所謂形而上に屬するものであるから、科學の知識は手が及ばぬといふことを知つて居らなければならない。神樣を顯微鏡で照して見ることは出來ない、佛樣を望遠鏡で覗いて見ることは出來ないのであるから、神と言ひ佛といふものは形以上のものである、宇宙の本質本體といふやうなことも形以上のものである。それ等の事を明かにする爲に、茲に哲學の知識といふものが世の中にあるのである。であるから科學の知識は尊敬をしなければならぬが、さういふ形而上の高尚な問題に就ては哲學の知識に讓らなければならぬ。

その哲學の知識から進んで、そこに一つの確乎たるものを握り得ると——例へば靈魂に關する問題を哲學が決定を與へて、それは斯ういふものであるときまれば、そこに今度は一つの宗教的の信仰といふものが生じて來るのである。神樣佛樣に對する哲學上の實在といふことがハッキリ證明されて來ると、そこに宗教の信仰を生じて來る、宇宙の本質本體に關する哲學の思想がハッキリして來た場合には、そこに宗教的の意味合が生れて來るのである。だから知識の問題に就ては、科學の知識は哲學の知識に對しては、頭を低げておとなしくして居らなければならぬ。又哲學の知識が何時までもまごついて居るのは本當の文明ではない、哲學の知識は思想的の決定を與へて、それが宗教の信仰にまで送り届けるのが本當の人類の文明であると了解するのが、正當なることである。哲學を以てて宗教の横腹を蹴飛して見たり、科學を以つて哲學を罵倒して見たり、「ナーニかまふものか、神樣が居るなら出て來い、文句があるなら顔を出して見ろ」といふやうなことを言つて、それが理窟になるやうに思つて居る、自暴自棄といふか、自棄のかんぱちといふやうな亂暴な考へを以つて、苟くも教育家であるとか、人類の文化に關與して居る人間として許す譯にはいかない。さういふ者はちようど社會主義者が爆裂彈を以つて親を殺し、君を弑せんとするのと同じ暴れ者である、法律

規則に依つて監獄に打込んでも宜い人間である。そんな無茶な事を言つて「佛樣でも神樣でも居るなら出て來い」といふやうなことを言ふ奴は。やがては親の頭を打割に行く危險な奴であるから、左樣な思想を國家の文明の中に、大手を振つて歩かせるといふ法は無い。（次續）

記事

統一團協贊會々報

現況報告

最近にこの人がと思ふ人から寔に意外の言葉を聞いて全く意外の感にうたれた。吾人に採つては打捨て置き難い一言である、曰く『統一團協贊會は果して成立するのでしようか、或は立消えですか、どうなるものかと私は其の成否を怪しんで居る』といふのであつた。世間一般から見れば大部分の人達が懷かれてゐる疑問であり、一部の人達は今に兜を脱いで宗門に頭を下げて來るものと公言してゐる位だから、人に依つては決して不思議ではないが、右の言葉が意外の人から出たので全く意外の感を深くした次第である。

本會が昨夏其計畫發表以來、これといふ程の目醒しい宣傳もせず、僅かに一管の筆で本誌のみに據りお願してゐたのは一見甚だ消極的に無力のやうに危ぶまれるのも、見方によればさうかとも思はれませうが、見方に依れば靜かなる無風狀態の中には家も飛ばす颶風の秘められて居ることを知らずばなりますまい。日生上人御在世中であつても數ヶ月はあまりに表面に知られずにあつたではないか、況や滅後に相當の迂餘曲折を見るは寧ろ當然の事で、『鷹競はずば正法と知るべからず』、本會が微し根據ない僞物ならば自然消滅でしようが、眞金ならばかゝる試練に耐えて彌々光輝を增すべきものと信ずる。三類の强敵が重疊して襲來したが、本會は超然として關せず焉と捨て置いたから、一犬虛に吠へ萬犬實を傳ふ、夫れから夫れへと取るに足らぬ中傷讒侮の惡聲に、漸く內容の充實を知らぬ人々の間に、都鄙を通じて一種の疑雲が濃厚に靄びくに到つたであらうが、遠からず消散するに到るべきを確信する。

恩師の一周忌迄には本部の目鼻をつけねば相濟まぬと、新年早々本部建設の候補地を內定し將に事業に着手せんとする際、偶々統一團の分裂を慨した管長立候補の宣言發表を耳にした。本部としては分裂とか反目とかいふ淺間しい邪念は毛頭ない。一意專念恩師日生上人の芳躅をそのまゝ繼承して行くのみ、他の汚らしい事柄は醜い人達の御勝手の妄想で、そんな事は一顧の價値ない事なのである、淨心に信敬する人ばかり吾人は提携して進む。本會としては來るべき管長の改選に際して、如何なる系統の人が當選されようが、それには微塵も關係はない、唯恩師日生上人の遺業たる本會の大使命に協力し理想實現に共鳴する心ある人と、又反對に之を中傷妨害せんとする人の起つことは吾人に至大の關係をみること論ずる迄もない。されば此際本會としては去一月十七日幹部會に於て左の決議を爲した。

本會ハ宗門ニ於ケル政黨各寮等ノ關係ヲ超越シ、專ラ本會ノ理想實現ノ爲ニ廣ク協力邁進センコトヲ期ス

右の目的完成の一手段として次の希望を持つ。

本會ハ今春顯本法華宗管長ノ改選ニ當リ、故本多日生上人ノ遺命ニヨル統一團協贊會ノ事業ヲ完成スベキ宣言ヲ發表スル管長候補ノ當選ヲ希望ス

勿論本會としては必ずしも宗門に據らねばならぬといふやうな妥協的輕弱化したものでは微塵もない。本會の淨業に關する內容は立派に準備され前述の通り本部建設に迄進捗してゐるが、偏に大法を憶ふが故に小分裂を避け眞の開顯統一の實を先づ手近い所より顯現し、更に進んでは門下の統合、三教融合に及び立正安國の聖意を理想とするが故に、諸の難事を忍んで精進して居る次第であります。

隨つて本會は種々考慮熟議の結果、來る三月十六日を期して財團組織と爲す最初の豫定を都合上二ヶ月延期し管長改選の曉を俟つて手續することに決議した。法人組織の手續は二ヶ月延期するも、一方資財勸募に就ては寄附金の御申込に對する御拂込は、何卒躊躇なく規定通りに御勸行の程特にお願申上ま

す、而して御知合のお方には、一人でも多く日生上人結緣の衆を御加盟あらせて頂きたい。是れ報恩の尤なるものと信ずるからであります。

南無妙法蓮華經

奇特家の出現

淺草の報恩閣に參詣された人々は、白髪の腰の曲つた一老婆を見るでしよう。この老婆こそ過去小林日至上人時代から聽法された不思議な善緣を結ばれ、從つて御遺文は多く暗記されて時々人を驚かされる篤信强盛なお婆さん！　其姓は原さんと稱へる。小西日喜師が同所に主任講師となられる前後から專ら留守居となられ身を以て奉仕されつゝあつた原さんは、今回協賛會の淨業に極力隨喜賛同されて居たが、遂に其老齢血と汗の結晶とも見ゆる實に貴い肌身離さない五十金を、氣前よくスパッと寄附され、ア、これで清々した、有り難いことでございます南無妙法蓮華經と唱題されたことは、近頃稀有の一大善事と歎美止まぬ。眞によく大法を聽聞された事實の顯れではあるまいか、寄る邊も尠ない老婆の身が、微々たる何年何十年かの永い間の貯金を、取纏めて一時に寄附された奇特な振舞こそ、いかに教化の偉力とは申せ、原さんの此の善根功德は私共を感憤興起せしめらるゝ事寔に夥しい、涙なくしてこれは書けない。恐らくこの記事を見て原さんは、とんでもないことを書たものだと、不滿に思はれるであらうとは考へないでもないが、あまりに貴いお志を默過出來ず、心から感謝を捧ぐると共に他にも隨喜して頂きたい。

統一團法人組織に對する寄附者芳名

（自昭和六年十二月十七日　至同　七年一月十六日）

一金五拾圓也　東京　原　みき殿（即納）
一金拾圓也　横濱　西村　喜勢殿（同）
一金六圓也　東京府　石川　景藏殿（同）
一金參拾圓也　大阪府　虎谷喜太郎殿（同）
一金參百四拾圓也　東京　佐藤梅太郎殿（同）
一金壹百圓也　同　平井　三造殿（同）
一金貳百圓也　同　野澤　一郎殿（同）
一金拾圓也　同　市原　求殿（同）
一金五拾圓也　横濱　中村　清一殿（同）

一金參拾五圓也　東京府　常修院日成殿（同）
一金拾圓也　同　和賀　謙介殿（同）
一金參拾圓也　東京　宇野　博順殿（同）
一金拾圓也　同　清水みさ子殿（同）
一金五圓也　同　伊藤わか子殿（同）
一金拾圓也　北海道　林　啓太郎殿（同）
申込總計金貳萬壹千百九拾四圓四拾貳錢也
既收累計金四千八百貳拾六圓四拾貳錢也

昭和六年度收支決算報告

（自一月一日　至十二月三十一日）

收入之部

一金四千六百七拾六圓四拾貳錢也　總寄附金
一金貳百拾貳圓八拾四錢也　雜收入
合計金四千八百八拾九圓貳拾六錢

支出之部

一金壹百拾八圓拾錢也　印刷費
一金壹百四拾壹圓拾壹錢也　大講演會費四回分
一金八拾五圓九拾五錢也　勸募旅費
一金參拾九圓九拾貳錢也　通信費
一金參百八拾七圓〇六錢也　雜費
一金壹千圓也　書籍費
合計金壹千七百七拾貳圓拾四錢也
差引現在金參千壹百拾七圓拾貳錢也

右の計算中支出の部に於ける印刷費は勸募に關する六種類の印刷物其他八、九月號統一誌六百部宣傳用施本の增刷費等を含む。大講演會費は會場費講師謝禮等。勸募旅費は九月上旬小西日喜師及礒部滿事氏の關西方面勸募の爲め出張せる費用主たるものなり。雜費中には講演速記料事務經常費等なるが、此の內金貳百圓は上田理事長より特志支辨されたるに依り即ち雜收入に繰入れ返還す。書籍費金壹千圓は本多日生上人著書中の法華經要義五百十一冊　日蓮主義心髓九百四十七冊　同精要五百五十六冊　及び本領百四十四冊は本多家に於てよりも寧ろ本會の責任あるものなれば右金額を支拂ひ書籍は本會に引取たり、猶金壹千圓の外に金貳百九拾圓也は礒部常任理事より支出しあるものなり。是等の書籍は本會の資財に付會員並に各位は成る可く賣捌き方御盡瘁あらんことを切望する次第なり。

右報告仕候也

統一團協賛會
會計理事　柴田武治

彙報

統一團本部新年初會

正月六日午後二時より、淺草報恩閣に於て恩師日生上人服喪謹慎の新年初會を催し、國禱會、滿蒙戰歿英靈追悼法要を虔修し、終つて梶木顯正師の感想挨拶あり、續いて磯部滿事氏の協賛會現狀報告を濟ませて後、談話會に入つた。數十の團員卓を圍んで且つ語り且つ食した、山口智光師の開會の辭に始まり野島連平氏、加藤重太郎氏、井上道太郎氏、小西日喜師其他各有志は白熱的緊張味を以て終始せられた事は、かの赤穗四十七義士の故事も追憶されて、法國の爲め慶賀に堪へない處であつた六時散會。當日池田はる子樣より金五圓也正法宣傳費として、又和賀謙介樣より金貳圓也慈父本壽院妙成日忠信士追善菩提の爲め御喜捨を戴いた事を厚く感謝申上げます。

因に本部毎月例會は第一及三の日曜日晩七時より報恩閣に於て開かれます、御誘合せ御來會の程御案内申上ます。

知法思國會新年懇談會

法國極めて多事の際、日蓮門下は協力大に活躍せざれば全く面目もあるまいとて、宗門側では酒井日蓮宗管長をはじめ各派主腦部と、在俗側では三佐藤、二井上閣下等門下知名の士二十數名發起され一月十九日午後五時朝日講堂に程近い對鶴館に新年懇談會を開催された。詳報は「教」誌上に載せられてゐるが、井上男の講演及び佐藤、井上、兩中將大迫大將其他日蓮宗や本門法華宗の前宗務總監神保、三吉兩師とか、高野實顯會長等十餘名の門下統合運動に關する感想談は、特に傾聽すべきものであつた。

山田三良博士送別清筵

先般京城帝國大學總長に就任せられた山田博士は、休暇中の御在京を機として法華會、聖教護持財團及び大乘佛教會等の關係者發起され、一月十四日午後五時　同博士と最も緣の深い一ッ橋學士會館に於て清筵を張り博士の御健康を祝福した。來會者も七十七名とは喜の字を表し彌々お目出度い。小林一郎氏の司會で、博士を始め數名の意義深い感想談あつて寔に和氣靄々たる會合、これ即ち博士御夫妻の人格が無言の大教訓を示したものでなからうか、朝鮮の學生諸君は大に幸福で歡ぶべきと思ふ。

日比野老尼來信

（前號に掲載の筈なりしも紙面の都合にて遲延多謝）

拜啓　向寒の砌皆々樣御清祥の段奉賀候　私儀貴地滯在中は一方ならぬ御厚情に預り深く御禮申上候殊に同信者等の深き御同情に預り滯在中誠に心强く愉快に日を過し申候　又貴き品々を頂戴致し故國に於ける同信者等の厚き御心寄せに對しては生涯忘れ得ざる印象を心の裡に感謝致居候　歸國に際しては態々御見送り被下千萬忝く御禮申上候　本月五日貴地出帆　十三日無事當地に安着仕候　當地信者諸子より厚き歡迎を受け貴地滯在中の模樣を委敷御話申述べ候處皆々滿足致し貴地同信者諸氏の御同情御親切に對し皆々感謝致居申候　本便にて御世話に預りたる御方々へ一々御禮狀差出すべきの處何分到着早々の事とて其意を不得候間　何卒統一雜誌を通じ同信者諸氏に厚く御禮申置き下されば誠に幸甚に御座候

右不取敢御禮旁安着御通知迄　合掌

昭和六年十一月二十一日　　日比野妙鏡

追而私の郵便宛名は左の通りに御座候

Mrs. M. Hibino.
c/o Cherry Co.
Fort St. Honolulu City, T.H.
P. O. Box 1375

取消

昭和七年一月發行第四百四十二號の四十五頁及び四十六頁中鈴木うた子女史に關する記事は同人の申出により取消す

勅題　鶯陽

君が代の　美い津は四方に　ひゝくらん
あかつき高く　鶏の初聲

誌料領收

自昭和六年十二月二十一日
至同七年一月二十日

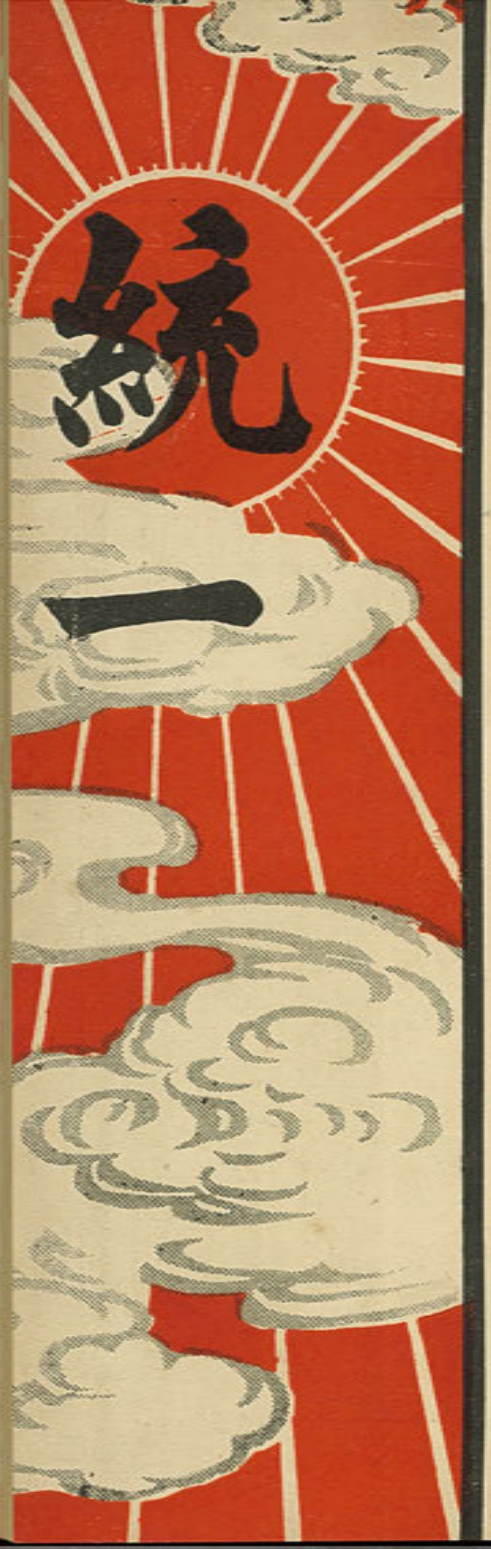
一金八圓四拾錢也　廣島　紀野日亭殿
一金貳拾貳圓也　臺中　松鶴妙明殿
一金貳圓貳拾錢也　津山　渡邊孝殿
一金貳圓貳拾錢也　兵庫縣　魚角量吉殿
一金貳圓貳拾錢也　朝鮮　島田次三郎殿
一金參圓五拾錢也　東京　長澤知敎殿
一金貳圓貳拾錢也　愛知縣　戸松あさ殿
一金貳圓貳拾錢也　東京府　榊原覺次郎殿
一金壹圓貳拾錢也　同　鈴木伊之助殿
一金七圓九拾錢也　大阪　吉永日洋殿
一金壹圓貳拾錢也　岡山　高木りう殿
一金壹圓貳拾錢也　千葉縣　豊水博殿
一金參圓八拾錢也　東京　小西日喜殿
一金貳圓五拾錢也　同　清水敬三殿
一金貳圓貳拾錢也　同　淺海てつ殿
一金壹圓也　同　萩田淺次郎殿
一金貳圓貳拾錢也　同　杉山まん子殿
一金貳圓貳拾錢也　同　吉川あか殿
一金貳圓貳拾錢也　同　大村物太郎殿
一金壹圓貳拾錢也　盛岡　中村謙藏殿
一金貳圓貳拾錢也　東京府　長澤信一殿
一金六拾錢也　大阪府　綾仁與三殿

一金貳圓貳拾錢也
一金壹圓貳拾錢也
一金壹圓貳拾錢也
一金貳圓貳拾錢也
一金貳圓貳拾錢也
一金貳圓貳拾錢也
一金貳圓貳拾錢也
一金參圓也
一金貳圓貳拾錢也
一金參圓五拾錢也
一金貳圓四拾錢也
一金壹圓貳拾錢也
一金貳圓貳拾錢也
一金貳拾錢也
一金壹圓貳拾錢也
一金壹圓貳拾錢也
一金參圓七拾錢也
一金貳圓貳拾錢也
一金八圓四拾錢也

大分　大石千尋殿
神戸　清水正藏殿
岡山縣　福島要藏殿
東京　岡野あきの殿
同　森吉松殿
大阪　新見辻平殿
同　武田萬次郎殿
同　友廣アサ殿
東京　伊藤わか子殿
同　島本あさ子殿
三重縣　伊東寛殿
岡山　杜岳龍華殿
高岡　島山友次郎殿
同　黒川安吉殿
靜岡縣　山本通榮殿
東京府　相良直一殿
同　榎本正殿
神奈川縣　野元盛幹殿
横濱　加藤不二男殿
津山　玉置留男殿
岡山縣　橙原克治殿
山形縣　村田義本殿
富山　岡駕太郎殿
廣島縣　村上信夫殿

本誌は日蓮上人傳の例月講演會御案内

月日	時間	場所	主題
九月一日	午後七時	淺草區馬道通二丁目　淺草寺	日蓮上人
十月一日	午後七時	淺草寺	同
十一月一日	午後七時	淺草寺	文殊菩薩
十二月一日	午後七時	淺草寺	同
十三年一月一日	午後七時	淺草寺	文殊菩薩
二月一日	午後七時	淺草寺	同
三月一日	午後七時	淺草寺	文殊菩薩
四月一日	午後七時	淺草寺	同
五月一日	午後七時	淺草寺	文殊菩薩
六月一日	午後七時	淺草寺	同
七月一日	午後七時	淺草寺	文殊菩薩
八月一日	午後七時	淺草寺	同
九月一日	午後七時	淺草寺	日蓮上人
十月一日	午後七時	淺草寺	同
十一月一日	午後七時	淺草寺	文殊菩薩
十二月一日	午後七時	淺草寺	同
十三年一月一日	午後七時	淺草寺	文殊菩薩
二月一日	午後七時	淺草寺	同
三月一日	午後七時	淺草寺	文殊菩薩
四月一日	午後七時	淺草寺	同
五月一日	午後七時	淺草寺	文殊菩薩
六月一日	午後七時	淺草寺	同
七月一日	午後七時	淺草寺	文殊菩薩
八月一日	午後七時	淺草寺	同
九月一日	午後七時	淺草寺	日蓮上人
十月一日	午後七時	淺草寺	同
十一月一日	午後七時	淺草寺	文殊菩薩
十二月一日	午後七時	淺草寺	同
十三年一月一日	午後七時	淺草寺	文殊菩薩
二月一日	午後七時	淺草寺	同
三月一日	午後七時	淺草寺	文殊菩薩
四月一日	午後七時	淺草寺	同
五月一日	午後七時	淺草寺	文殊菩薩
六月一日	午後七時	淺草寺	同
七月一日	午後七時	淺草寺	文殊菩薩
八月一日	午後七時	淺草寺	同
九月一日	午後七時	淺草寺	日蓮上人



目次

聖應院日生上人墓碣ト其陰誌
聖訓摘要……聖應院日生上人
王法と佛法(上)……小林一郎
日生上人を憶ふ(其六)
日生上人墓前言上文
記事
○統一團協賛會々報
○教戒
○誌料領收

第三十七年三月號

(四十八頁より續く)

一金貳圓四拾錢也　東京　加藤承大郎殿
一金壹圓貳拾錢也　同　西村正殿
一金壹圓貳拾錢也　千葉縣木村日香殿
一金貳圓貳拾錢也　濱松市佐伯有台殿
一金五圓也　淡路吉岡正太郎殿
一金八拾錢也　福井本願寺殿
一金壹圓也　東京府鈴木伊之助殿
一金貳圓貳拾錢也　富山田村幸次郎殿

右慥有入帳仕候也

「統一」會計

御注意

一、團費、誌料は總て前金に願ひます
一、「前金切」御注意致し二ヶ月に及ぶも御拂込なき場合は乍遺憾御送本見合はすことあります
一、集金郵便は參圓以上にて其取立には團費誌料の上に金拾錢の集金料を添加致します

一、御轉居の節は必ず新舊双方を御明記御通知下さい

統一定價

一部	金貳拾錢	送料五厘
半ヶ年	金壹圓貳拾錢	前金送料共
一ヶ年	金貳圓貳拾錢	前金送料共

統一廣告料

表紙一頁	金貳拾圓
一頁	金拾五圓
半頁	金九圓
四分一頁	金五圓

昭和六年十二月廿四日印刷納本
昭和七年二月一日發行　(第四百四十三號)

神奈川縣横濱市磯子區磯子町廣地一四八
編輯兼發行人　磯部滿事
印刷人　鈴木日雄
東京府荏原郡品川町南品川百八十一番地
印刷所　都印刷所
電話高輪六〇二四番

不許複製

發行所　統一發行所
東京府荏原郡品川町南品川四百十二番地
振替東京五一〇七一番

編輯事務ハ發行所ニテ取扱フ